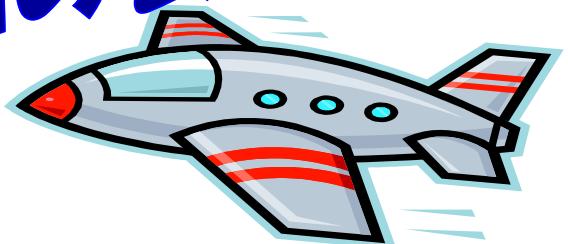




3月31日

# 愛知から広げよう支援の翼! 「JAL解雇撤回愛知の会」結成!



3月29日と30日の不当判決への怒りの声が全国に流れた翌日、3月31日に不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える愛知の会(略称:JAL解雇撤回愛知の会)が結成されました。



【写真】3月31日に開かれた「JAL解雇撤回愛知の会」の結成総会。必ず不当判決は跳ね返す!闘いはこれからだ!と、決意を確認。

## 闘いはこれからだ!「ウインク愛知」で結成総会

2時からの結成総会。開場を埋めつくす参加者。呼びかけ人の一人である博松佐一愛労連議長が開会のあいさつ。「この解雇はもともと行政の失策、放漫経営のツケを労働者に押し付けたもの。整理解雇の4要件をまったく無視した不当判決だ。これは、すべての労働者に対する攻撃である」「闘いはこれからです!」と博松議長。

訴えと決意表明に立った清田事務局長は「判決後にJAL解雇撤回愛知の会を立ち上げてくださったことを大変心強く感じています。安全・安心なJALをとり戻す闘いの先頭に立って頑張ります」と、決意を表明しました。

自由法曹団の山下弁護士と伊藤弁護士が不当判決の分析を報告。今回の判決は更生計画を推し進める会社主張を鵜呑みにして「経営判断が合理的であった」とし、原告主張を退けた不当判決だと断じました。また、整理解雇 4 要件の観点から、判決の問題点をわかりやすく解説しこの判決は整理解雇 4 要件を骨抜きにする不当なものである。また、高収益を上げる等更生計画をいくら上回っても再建を優先するという、再建と空の安全とを天秤にかけた安全軽視の判決でもあると断じました。



【写真】挨拶する和田教授

## 控訴審では多くの学者を動員

呼びかけ人の一人でもある名古屋大学法学部和田肇教授が閉会のあいさつに。和田教授は、「1990 年代に整理解雇 4 要件が緩和されたことがあったが、2000 年代に入って克服された」「控訴審では出来るだけ多くの学者を動員して意見書を書かなくてはいけないと思った」



「年齢差別の部分では、アメリカ等では考えられない判決」「この闘いは社会に対する異議申し立てであり、人間の尊厳をかけた闘いである」と述べ、不当解雇撤回闘争の強化を訴えました。

総会では、全厚生、国枝さんと愛知争議団の植木さんからも、力強い連帯の挨拶をいただきました。



【写真】総会前の 1 時間、あの空にかえろう! と、名古屋駅で宣伝行動

# 早期全面解決! 早期職場復帰! 安全で明るいJALを!

## 雨について宣伝行動＝総会前

結成総会前の 1 時間、暴風雨の中 12 時から名古屋駅前で宣伝行動を実施。原告団と支援者と合わせて総勢 40 名が参加し、マイク宣伝とともに 1000 枚以上のビラを配布しました。



【写真】総会後は「労働者の使い捨てにするな！」と、名古屋駅周辺をデモ行進

## 名古屋駅前をデモ行進＝総会後

また、結成総会後は名古屋駅の周辺をデモ行進。雨にもかかわらず、デモ行進には 100 名以上の方が参加し、シュプレヒコールを響かせながら元気に行進。闘う決意をアピールしました。

### シュプレヒコール(スローガンの抜粋)

- ・公務員イジメはやめよ!
- ・社保庁、JAL の不当解雇撤回!
- ・若者にまともな雇用を!
- ・企業は労働者を使い捨てにするな!
- ・大企業は貯め込んだ金を雇用にまわせ!
- ・政府は被災地の雇用を確保せよ!
- ・正規・非正規・官・民の違いをこえて、労働者は連帯して闘おう!!!